

2025 年2月 14 日

各 位

会 社 名 楽天グループ株式会社

代表者名 代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(コード:4755 東証プライム市場)

2024 年 12 月期 当社連結業績の前期との差異に関するお知らせ

楽天グループ株式会社(本社:東京都世田谷区、代表取締役会長兼社長:三木谷 浩史、以下「当社」)は、本日開催の取締役会において承認されました 2024 年 12 月期の連結業績について、前年同期業績との差異が大きいため、その概要について下記の通り、お知らせします。

記

1. 2024 年 12 月期の業績(2024 年1月1日～2024 年 12 月 31 日)

連結業績(IFRS)

	売上収益	営業利益 又は損失(△)	親会社の所有者 に帰属する当期 損失(△)	基本的1株当たり 当期損失(△)
2023 年 12 月期実績(A)	百万円 2,071,315	百万円 △212,857	百万円 △339,473	円 銭 △177.27
2024 年 12 月期実績(B)	2,279,233	52,975	△162,442	△75.61
対前期増減額(B-A)	+207,918	+265,832	+177,031	+101.66
対前期増減率	+10.0%	-	-	-

2. 差異が生じた理由

2024 年 12 月期は、インターネットサービス、フィンテック及びモバイルの全てのセグメントにおいて増収し、売上収益は 2,279,233 百万円(前期比 10.0%増)となりました。

営業利益について、インターネットサービスでは収益性の向上を企図したマーケティング施策変更等を経て、セグメント利益が大幅に改善しました。特に、海外インターネットサービスを運営するインターナショナル部門においては通年での黒字化を達成し、セグメント利益の拡大に大きく貢献しました。フィンテックにおいては、各サービスにおける顧客基盤及び取扱高の拡大に努めた結果、更なるセグメント利益の向上につながりました。モバイルにおいては、自社エリア及びパートナー回線を活用した効率的なネットワーク品質の改善を進めるとともに、マーケティング活動を強化した結果、契約回線数が増加し売上収益が拡大したことで、2024 年 12 月には、楽天モバイル株式会社単体の月次 EBITDA(注1)が携帯キャリア事業参入後初の黒字化となり、セグメント損失の大幅な縮小へとつながりました。この結果、Non-GAAP 営業利益(注2)は、7,048 百万円(前期比 160,089 百万円改善)となりました。

加えて、AST SpaceMobile, Inc.株式の会計上の取り扱いの変更による再測定益 106,906 百万円をその他の収益として計上したこと等により、IFRS 営業利益は、52,975 百万円(前期比 265,832 百万円改善)の黒字となりました。

また、一方で、デリバティブ評価益及び支払利息が前期から増加したこと等による金融収益及び金融費用の純額の減少(前期比 36,513 百万円減)や、事業環境及び今後の業績動向等を勘案し、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、当期に一部取崩しを行ったこと等による法人所得税費用の増加(前期比 33,968 百万円増)を受け、親会社の所有者に帰属する当期損失は 162,442 百万円(前期比 177,031 百万円改善)となりました。

(注1) Non-GAAP 営業利益(注2)に、減価償却費等を加算して算出。

(注2) IFRS に基づく営業利益に当社グループが定める非経常的な項目やその他の調整項目を調整して算出。

以 上